

阿部さんのドイツレポート (No. 2)

今月私は、ボランティアとしてホスピーツという余命が後1～2ヶ月の方が余命を迎えるまでの期間を穏やかに待つ為の施設に行って琉球舞踊を披露してしました。

私は以前から何か日本のことについて紹介したいと思っていたけど、ドイツの学校はイベント（体育祭、文化祭、全体集会など）が特に無く、学校の生徒が集まる機会が無かったので自分のクラスにしか紹介が出来ていませんでした。先生にお願いして少し年下のクラスで紹介させてもらうことになっていますが。学校以外で紹介する機会を探していた中、希望者で歌や朗読をホスピーツでボランティアとして披露するということを知って担当の先生にお願いして踊らせてもらいました。あまり長い時間は使えないということで一曲だけ「秋の踊り」という踊りを披露しました。正直かなり長いこと踊っていなかったうえ、準備期間が1週間しか無かったので毎日2～3時間近く練習しました。最近の沖縄や日本でも古典の舞踊は衰退しつつあって、ウケがいいのは創作舞踊などのエンターテイメント性が強いものになってきています。もちろんどちらも良い所があり、そして弱い所もあると思います。古典舞踊は歴史があってとても洗練されていますが、強いインパクトがあるものはそう多くなくゆっくりとした曲調のものが多いので途中であまり興味のない方は退屈してしまうという事があります。私は沖縄の文化を紹介して「こんなものなんだ一、ちょっと退屈かも」なんて思ってもらいたくないし、多分私が紹介するもの＝日本や沖縄の文化、と印象に残ると思います。そして、多分沖縄や日本について詳しく触れる機会はない人にとってはそれが沖縄や日本の印象に直結するかもしれません。もしかすると理解できない人もいるかと思いますが、海外の方に文化を紹介する時は本当に責任を持たないといけないと思います。少なくとも私はそう考えているので、準備している間もすごく不安でした。ホスピーツでの披露の前日にクラスメイトにリハーサルとして披露した時に「とても綺麗だった」と言ってもらえてようやく安心できました。当日、ホスピーツでは失敗することも震える事もなく自分のベストは尽くせたと感じました。ホスピーツの患者さんだけでなく介護士さんや他のボランティアに来ていた生徒も喜んでくれて、「素敵だった」「ありがとう」などと言ってもらえて本当に良かったです。その当日には新聞記者の方が来ていて、このボランティア活動は記事になりました。私の踊りにも興味を持ってくれたようで、いくつか質問されましたが実際の記事には詳しく書かれてはいませんでした（笑）ですが、今までホスピーツのような場所に行ったことが無かったし、色々説明なども聞かせてもらって、余命が1～2ヶ月と聞いた時は少し切ない気持ちになりましたがとても貴重な体験をさせてもらえました。



阿部さんが載った新聞記事です。